

松田町立松田中学校

研究テーマ：学習する生徒が主役となる授業づくり ～答え探しから、答えづくりへ～

1 実践の目的

(1) 研究テーマの背景について

近年、AIやインターネットの発達により、さまざまな知識や問題解決方法を簡単に手に入れることができるようになった。変化の激しいVUCA時代の中で、教育に求められる役割は大きく変わりつつある。過去の成功例や既存の正解を正確になぞる力だけでは、正解のない課題や変化し続ける状況に対応することはできない。答え探し型の学習は、用意された問いに知識を当てはめることに力点が置かれ、学びを新たな場面に生かす力へとつながりにくい側面がある。これからの学びには、既存の正解を再現する力ではなく、自ら答えを生み出す力を育てる視点が不可欠である。

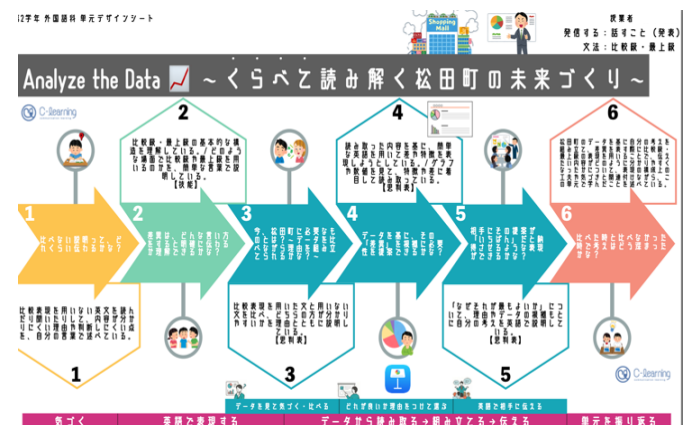
2 実践の内容

本校は、令和元年度より授業改善アドバイザーとして 三浦修一 氏を招き、継続的に授業改善を進めてきた。今まで培ってきた学びの土台のバージョンアップを図りながら、学びの質的向上を目指した。今年度は「答え探しから、答えづくりへ」というテーマ設定のもと、授業者が正解を教える授業ではなく、学習者が考えたいくなるような問いを大切にしたい。

① 生徒のための単元デザインシート

答えづくりの授業を継続的に実現するためには、「単元を貫く大きな問い」を軸に単元を設計することが大切である。単元は知識を並べる場ではなく、問いに対する答えを少しずつ構築していくプロセスとして構

想されるべきである。単元デザインシートは「学びのプラン」として授業で学習者に配付し、学習者が学習の見通しを立てるためのツールとして活用している。授業者が単元デザインシートを作成する際は、該当の教科だけで検討するのではなく、できるだけ多くの人と共有して意見交換を行い、ブラッシュアップを図った。さらに、今年度は「ねらい」と「身に付けさせたい資質・能力」、「評価する内容」の三点を意識しながら記入し、生徒に配付した。



② 授業づくりカンファレンス

「いかに資質・能力を育成することができたかや、そのための授業をどのように行ったか」について、授業に関わる生徒すべてが考え、意見を述べ合った。また、学習者が授業をどのように受け止めていたのかを確認し、授業者が授業を質的に評価する姿勢を大切にした。

③ 学ぶ力を身に付けるためのスキル「受け止め」

同じ学習内容でも、どのように受け止め、処理し、発信するかによって学習者の学びの質は大きく変わる。そのため、「受け止め」の質を高める具体的な行動を身に付けられるように、各教科でさまざまな方法やタイミングを工夫した。今年度は授業者が普段の授業の中で、「受け止め」を意識した授業について、学期ごとにリフレクションと取組宣言を行った。

学ぶ力を身に付けるためのスキル				
	発信する	処理する	受け止める	
言語	受け手に伝わりやすい表現を工夫して発信する。	伝えたい内容を、表現の仕方とあわせて組み立てる。	受け止めた内容の意味を、自分の表現に書き直す。	言葉や記号などの意味を確かめながら受け止める。
情報	身の回りや社会をよりよくすることを旨として発信する。	発信したい内容を、表現の仕方とあわせて組み立てる。	集めた情報の内容を、自分の表現に書き直す。	どのような情報が必要かを考えて収集する。
解決	課題をよりよく解決できる内容で提案する。	よりよい内容が提案できるように、表現の仕方とあわせて組み立てる。	課題を解決するためのいくつかの提案を比べて検討する。	問われている課題をどのように受け止めたのか表現する。

「言語」とは、言葉だけでなく、地図の記号、数字、図形、数式で用いられる記号、化学記号、音符、色、トーン、ピクトグラム、身体表現、服装など、非言語コミュニケーションの要素を含むあらゆるコミュニケーションツールをさしている。

重点 (2024~2026)

「受け止め」の質を高める具体的な行動を身に付けよう

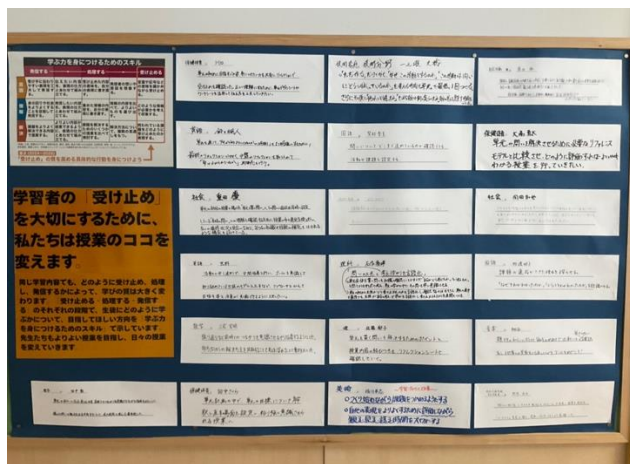
3 実践の成果

単元デザインシートについては、検討会の中で大きな問いの設定や身に付けさせたい資質・能力を発揮させるための学習プロセスが生徒にも伝わるかなどの意見交換ができた。また、単元で何を語らせたいのかを明確にしながら議論を進めることができた。

授業づくりカンファレンスにおいては、授業者が多くの学習者の声に耳を傾け、授

業をより良くしようとする取り組みが見られた。カンファレンスの中で生徒からは「教科書に書いてある内容をそのまま進めるだけの授業は避けてほしい」「全員で一緒に学ぶ形式の方が意欲的に取り組める」「話し合いの時間をもっと多く確保してほしい」など、多様で具体的な意見が寄せられた。また、授業の途中で仲間同士が互いに評価し合ったり、意見交換を行ったりすることで、自分の学習状況を見直すことができたという声も聞くことができた。

学ぶ力を身に付けるためのスキル「受け止め」においては、学習者が単元を貫く大きな問いについて、リフレクション等で評価しながら学習を進めている授業が見られた。



4 今後の展開

今後も校内で策定した「中長期学びづくり計画」に沿って、学びの質的向上を図っていく計画である。学ぶ力を身に付け、学びの本質に触れられる学習者が増える授業づくりを実現するために、これまでの授業改善の質をより一層高めたい。そして、「思考力、判断力、表現力等」の育成が図れるように、生徒一人ひとりが単元を貫く大きな問いを通して、「答えを探し出す」ような授業ではなく、様々な視点からの「答えづくり」ができるような授業改善を図っていきたい。